

▲ 巨大な桂の木の株

竹沢小学校の児童たちは昨年、地域にある素材を生かした「造形教育」活動を行っています。木の切り株や根・木のつるなどそれぞれの素材の長を生かして、動物を表現したものや幻想的に仕上げたものなどたくさん造形美あふれる作品ができました。

十月七日に、村内と県内各地から関係者約百八十人が集まり、これら作品の発表展示会が行われました。極めつきは、校舎横の道路端に展示されている、重さ五トンの巨大な桂の木の株。通りすがりにごらんください。

「美」とは、美しいこと(もの)。
春、残雪の中に芽吹く緑、咲く花。
夏、深緑のみずみずしい色。
秋、鮮やかな紅葉の山々。
冬、晴天の日の白銀の世界。
美しい自然の山古志村ですが、四季それぞれの自然美には恵まれています。
花や植木を育てる人。絵を描く人。切り株をみがきあげる人。そして、美の極致、錦鯉を育てる人。人間は意識してもしなくても、常に美にあこがれ求めようとしています。

竹沢小学校の造形教育

六拍子(児童・職員・父母・地域の人・県・村)が調和した

インフルエンザ予防接種

会場	第1回	第2回
竹沢小学校	11月6日(金) 1:30~2:30	11月24日(火) 1:30~2:30
東竹沢小学校	11月6日(金) 2:50~3:20	11月24日(火) 2:50~3:20
種芋原小学校	11月11日(水) 1:30~2:30	11月27日(金) 1:30~2:30
池谷小学校	11月11日(水) 2:50~3:30	11月27日(金) 2:50~3:30
山古志中学校	11月13日(金) 1:30~2:20	12月1日(火) 1:30~2:20
虫亀小学校	11月13日(金) 2:40~3:00	12月1日(火) 2:40~3:00

●料金—幼児無料、小・中学生500円、一般700円



秋の全国火災予防運動
(11月26日~12月2日)

税を知る週間
(11月11日~17日)

犬、ねこの引きとり

11月27日(水)	役場	10:30~11:00
-----------	----	-------------

- 手数料……1匹1,000円。子犬、子ねこは10匹まで1,000円。
- 引取方法……親犬、親ねこは麻袋等に。子犬、子ねこは段ボール箱に入れ封をする。印鑑を持参ください。

献血にご協力ください

11月4日(水)

- 村民会館 午前10時~12時
- 山古志村農協本所 午後1時~3時

出稼ぎをされる人は、国民健康保険や国民年金の手続きを、忘れずに行ってください。

出稼ぎされる人は 国保・年金の手続きを お忘れなく

▼出稼ぎ先で引き続き 国保を利用するとき 出稼ぎ先の会社等に社会保険が

なかつたり、短期間他の市町村に滞在する場合は、「被保険者証」を発行します。出稼ぎなどに行く前に申請してください。

▼社会保険に加入するとき 出稼ぎ先の会社等で社会保険に加入する場合は、役場から「社会保険加入及び脱退証明書」の用紙をもらい、「加入証明書」を入してもらい、「加入証明書」を役場に送ってください。また、「年金手帳」も持参し、いっしょに加入年月日を記入してもらってください。

社会保険に加入する人は、手続きを確実にし、保険料の二重払いや資格の空白期間ができないよう注意してください。出稼ぎに限らず、社会保険に加入や脱退したときは、十四日以内に手続きをして

▼出稼ぎから帰ったら 「被保険者証」は、すぐ役場にお返しください。 社会保険に加入していた人は、出稼ぎ先の会社から「脱退証明書」をもらい、すぐ役場で手続きをしてください。

不燃ゴミ収集 今月まで

五月から毎月十日に収集を続けてきた不燃ごみを、十一月十日の収集を最後に今年は終了です。それ以後は収集に回りませんから、絶対に出さないようにしてください。

なお、来年はまた雪消えと同時に収集を始めます。

11月の

納税・保険料

- ★保育料(11月分)
- ★国民健康保険料(11月分)
- ★国民年金保険料(11月分)



勤労感謝の日(11月23日)

お知らせ

停電のお知らせ

- 山古志村(種芋原を除く)
11月11日(水)
12時~16時まで

郷土愛・豊かな情操を

はぐくむ「造形教育」

山古志にある自然・素材を生かした芸術、昨年県下の多数ある小学校の中で、造形教育のモデル校に竹沢小学校が指定されました。その活動状況について紹介いたします。

山古志村立竹沢小学校校長 竹沢小学校では、十月七日、同校が県から昭和六十一・二年度と二年間にわたって指定をうけ、進めてきた造形教育の発表会と作品展示会が行われた。



木のかぶつや藤つるなど地域にある素材を活用した造形的な創造活動を通して、郷土愛、豊かな情操をはぐくんだ成果を紹介したものである。

約三百五十点の作品が展示されたほか、木の皮、おかくず、かぶつや枝など組み合わせ、構成美を表現する実践内容も公開された。約百八十名の県下各地からの参加者と地域の方々の作品観覧者で終日、熱気に溢れていた。

また、同日のようすを新潟総合テレビでも放映され、県下に反響をよんだ。

さて、同校の二年間にわたって進めてこられた造形教育が、いろいろの面で注目され、評価され、反響をよんだのは、いったいなんなのかを取材してみた。

第一は、日本で山古志でしかできない個性豊かな創造作品がたくさん出来上がったことである。三百数十点ある作品の中、同じものが無い個性豊かな美しさ、小学生とは思われない見事な出来栄であったということ、しかも、これら作品の素材が山古志には無



▶ 何に見えますか。兎？ (二年生)

尽蔵にあるという造形活動を通してながら郷土のよきに目を向けた。

第二は、児童、職員、父母、地域の方々、村・県当局など六拍子がうまく調和してリズムにのって取り組んだことである。

児童職員一体となつての造形活動は、おもしろい、おもしろいからやる。やるからだんだんおもしろくよきもわかってきたと休み時間放課後と寸暇を惜しんで活動に励んだ。活動しながらどうして美しいんだらうという真を求め、心出来上がった作品を見てもらったりおこつたりして喜んでもらおうという善の心、素材の形、色への美しさを感じる美の心をはぐくんだ。

通勤の身にある多忙の父母も活動のようすをみながら、なんとしても成功させねばと大目の作品の移動や幕張りなどの準備、当日の運営に日曜やお勤めを返上して取り組んだという。また、地域の方々の素材の寄贈や労力奉仕、村



▶ 賞状を手手に、東竹沢小学校の清水校長先生

県当局の物心両面にわたって温かい支援指導をいただいたという。

第三に、造形教育の趣旨及び内容がだれにでもよくわかり、受容してもらったことである。

取り組んだ内容は、実践によって産みだし、創造したものばかりである。それを理解しやすく冊子にまとめたり、スライド、ビデオ音楽など駆使したり、実際の造形活動のようすなど公開したりして直接に参加者の目、心に訴えたことが共鳴、感動する源をうんだ。

造形教育に端を発し、二一世紀の教育、村活性化へと期待したい。

良い歯で

表彰

村内の小中学校七校(小学校五校、中学校二校)で組織する「山古志村学校保健会」が、「第二十九回新潟県よい歯の学校運動」で



村内各学校では、食後の歯みがきやフッ素洗口の励行を行い歯の健康を守っています。「歯は健康の源」、みなさんも「歯」を大切に、むし歯にならないようご注意ください。

村学校保健会

村内の小中学校七校(小学校五校、中学校二校)で組織する「山古志村学校保健会」が、「第二十九回新潟県よい歯の学校運動」で

やまこし発!!

ふるさと宅急便 発送



「ゆきぐくに企画(社長五十嵐英益、株主三十七人)では、八月に『ふるさと山古志の四季の味と香をあなたのお宅に』をキャッチフレーズに『ゆきぐくに友の会』の会員を募集し、現在会員二二八名。年四回のふるさと宅配便のうち第一回目の発送が行なわれました。株主全員で十月二十日の夜、品物の集荷を行い、翌二十一日の夜、株主十八名で荷作り作業が行なわれました。メニューにそって、そ

お年寄り450人が集まって 三古老人スポーツ大会

十月十五日、山古志中学校体育館で『三古老人スポーツ大会』が開かれました。

三島郡・古志郡の各町村と寺泊老人ホームの八チーム、四百五十人が集まり、会場はぎっしりに。村内からも応援の人も含め八十人が参加。団体戦六種目、個人戦五種目が行われ、ハッスルプレーの連続でした。

「宝運びリレー」では、男女二人が肩が組み、片手でバレーボールの玉をおさえて走ります。アベック七組のリレーですが、途中でボールを落としたり、熱が入って走ったり。

成績は、三島町が昨年に続いて優勝。山古志村は、玉入で二位になるなど健闘したものの、五位に終わりました。



生産品が殆んど、会員が喜んでもらえてふる里を思い出してもらえらるものを選んでさうです。

第二回目の発送は、十二月下旬頃の予定、クリスマスと正月の両方に喜んでもらえるものにしたことでした。



歳時記

渡り鳥

に寄る旅鳥(シギ類、チドリ類)があります。また迷鳥といつて、本来、日本には来ないはずの鳥が何かの拍子で迷い込むこともあります。

渡り鳥のなかには赤道を越えて一万キロもの旅をするものも多く、特にキョクアジサイという鳥は、北極圏から南極まで一万八千キロもの旅をするさうです。

ところで、鳥の渡りは春と秋に行われるのに、俳句では秋の季語になっています。なぜでしょうか。一説には、秋の渡りが集団になって目立つからだと言われて

渡り鳥という、秋空に隊列を組んで、竿になつたり鉤になつたりして渡る雁や、空が暗くなるほどの大群で飛来するツグミを思い出す方もあると思います。

昔はツグミの群れを霞網で捕らえて食用にしたさうですが、いまは狩猟鳥からはずされて保護されておられ、こうした光景を見ることはなくなりました。

日本で見られる鳥の約八五%が渡り鳥です。渡り鳥には、夏を日本で過ごす夏鳥(ツバメ、カッコウなど)、冬を日本で過ごす冬鳥(ツグミ、雁、白鳥など)のほか、移動の途中に日本



十一月の行事には「パートタイム労働週間(一日〜十日)」があります。昭和五十九年に出版された労働対策要綱の周知を図るための月間です。ちなみに、雇用者中に占めるパートタイムの割合は、男子一・二%に対し、女子は二二・七%と二倍以上になっています。

第二十六回 山古志村

総合錦鯉品評会

10月22日開催

(4) 広報やまこし

第二十六回山古志村総合錦鯉品評会が、十月二十二日、錦鯉総合センターで開かれました。昨年より約三十点多い四百五十二点が出品され、七品種、八部門で錦鯉の出来栄が競われました。晴天には恵まれなかったものの、心配された雨は降らず、寒い日でしたがまずまずの品評会日和でした。今年の山古志錦鯉ナンバー・ワンは虫亀の五十嵐千人さんの大正三色に。審査長の富田県内水面水産試験場長は、審査講評で、「総合優勝の大正三色は、風格・紺盤の大きさ、スミの付きが、候補として上がった鯉の内最高で、大多数の審査員の賛同で……と。表彰式終了後、一部から四部門での入賞鯉約百点が競売されました。品評会で入賞したお墨付きの優秀鯉ということもあって、威勢のいいせりの掛け声が響いていました。

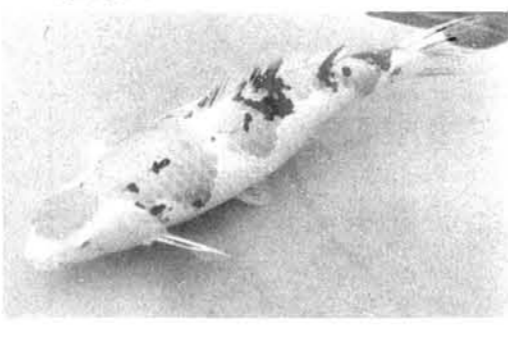
錦鯉品評会 入賞者(敬称略)

- 出品点数
一部 一二点 二部 三二点
三部 六一点 四部 四八五
五部 五二点 六部 三五五点
七部 一〇点 親子 三二点
- ◎総合優勝
大正三色 五十嵐千人(虫亀)
- ◎総合次席
大正三色 佐藤五郎治(下村)
- ◎一部最優秀賞
紅白 星野文孝(二丁野)
- ◎二部最優秀賞
大正三色 松田松夫(虫亀)
- ◎三部最優秀賞
紅白 佐藤啓一(二丁野)
- ◎四部最優秀賞
紅白 五十嵐千人(虫亀)
- ◎ジャンボの部最優秀賞
坂牧菊松(種芋原)
- ◎種苗奨励賞(親鯉) 優勝
三色 星野秀雄(山中)
- 部門別優勝
▲三色
一部 広井利信 二部 佐藤五郎治 三部 星野重行 四部 五十嵐千人 五部 星野武正 六部 青木金吉

- ▲紅白
一部 佐藤幸男 二部 石原光六 三部 星野文孝 四部 石原貞作 五部 星野勇 六部 青木金吉
- ▲昭和、写り
一部 長島弘 二部 星野謙弥 三部 佐藤五郎治 四部 青木毅 五部 五十嵐幸作 六部 五十嵐千人
- ▲光りもの
一部 五十嵐松男 二部 広井利信 三部 星野武雄 四部 五十嵐幸作 五部 星野義太郎 六部 星野武正
- ▲金銀鱗
一部 青木毅 二部 松田松夫 三部 星野謙弥 四部 石原武 五部 五十嵐千人 六部 田中重雄
- ▲変りもの
一部 藤井元一 二部 関勇 三部 星野謙弥 四部 坂牧菊松 五部 五十嵐秀幸 六部 関勇
- ▲五色・アイ衣
一部 田中良宗 二部 田中良宗 三部 松田松夫 四部 星野重行 五部 田中忠雄 六部 田中忠雄
- 「審査講評」
昨夜の雨もあがり、第二十六回の山古志村錦鯉品評会おめでとございます。私のほか、十二名が三班にわか



総合優勝の大正三色



人権擁護委員に 長島元三郎さん

十月一日、人権擁護委員に、長島元三郎さん(虫亀)が、長島元三郎さんの後任として法務大臣より委嘱されました。

人権擁護委員は、国民に保障されている基本的人権を守るため置かれています。相談は無料で、秘密は守られますので、人権に関する問題でお困りの方は、気軽に相談ください。

・私的制裁、名誉や信用の侵害
・村八分、教育を受ける権利の侵害
・強制圧迫、酷使虐待、生活権の侵害、その他お困りの問題。
(電話五九二二四四七)

新潟県

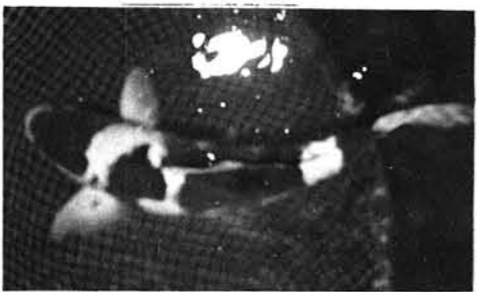
錦鯉品評会

十月二十五日(日)に一般公開された、「第二十七回新潟県錦鯉品評会」。例年どおり小千谷市役所前で行われ、県内各地から千五百七十七点の出品がありました。

全体総合優勝(農林水産大臣賞)は、小千谷市の大日養鯉場の昭和三色が獲得。山古志村からは六十一点が出品され、四部優勝(県知事賞)に星野要一さん(二丁野)の大正三色が入賞するなど二十八点が入賞し、入賞率は四十六パーセントと優秀な成績でした。(全体の平均入賞率は三十六パーセント)

しかし、残念なことに産地山古志村として、出品目標九十点が達成できなかったことが惜しまれます。

- 村内の入賞者は、次のとおりです。
- 四部優勝(県知事賞)
星野要一(二丁野) 大正三色
- 優勝一席
五十嵐千人(虫亀)
- 渡辺一治(下村)
- 田中忠雄(虫亀)
- 優勝二席
五十嵐松男(大久保)



4部優勝(県知事賞)の大正三色



県知事賞受賞の星野要一さん

- 青木源太郎(池谷)
五十嵐敏勝(虫亀)
星野武雄(二丁野)
- 優勝三席
齊藤広栄(虫亀)
長島弘(虫亀)
- 準優勝
岡本幸夫(二点) 長島弘(二点) 星野勇(二点) 星野武正(二点) 関幸作 石原弥一 五十嵐松男 五十嵐敏勝 渡辺一治 田中重雄 関登志雄 五十嵐正作 五十嵐千人(敬称略)

萱峠牧場の秋

魚沼三山のみが残雪を残し、緑色の萱峠、六月一日に上牧した親子牛十七頭が百四十三日間の放牧を終えて、十月二十一日元気に下牧しました。

当日は、ミゾレ混りの悪天候でこごえそうな日でした。でも牛主達は一頭一頭体重を計り、無事に育った子牛に目を細めていました。今年からはじめて親子一緒の放牧でしたので、関係者一同大変心配していたので、トラックに積み入れ、山を下りる牛たち



わがまち、わがむらの逸品まつり

去る九月十七日から二十一日の五日間、「わがまち・わがむらの逸品まつり」(参加五十七市町村)が新潟市の大和百貨店で、また、十月二日から七日までの六日間、同じく、新潟市の三越デパートで、「にいがたのふる里展」(参加五十七市町村)が開催されました。自

ぬるま湯で省エネ炊飯

寒くなってくると、電気炊飯器の電気を消費する量も増えてきます。省エネのためにも、ご飯を炊く時にぬるま湯を使ってみてはいかがでしょう。寒さの厳しい日に、冷たい水を入れてご飯を炊くと、水が温まるまで余分な電気を必要とします。そういう日には、ポットなどのお湯を加えてぬるま湯にして炊くと効率的です。水加減は同じですから、どなたでも簡単においしくご飯が炊けます。



山古志村の展示即売コーナー

普及所から 農改コーナー

62年稲作を 振り返って

北陸農政局新潟統計情報事務所が発表した、六十二年産水稲の中部地域の作況指数は、十月十五日現在で「一〇五」となっています。市町村の作況はまだ発表されていませんが、山古志村では昨年よりやや上回ることが予想されています。

- ① 今年の稲作の特徴は、田植時期が早まり、健苗が植えられた。
- ② 五月中旬から六月上旬までやや高温であったため、本田初期生育が順調で基数が早めに確保された。
- ③ 六月十三日のつゆ入り後七月下旬まで空つゆで、低温・多照・少雨に経過したため、草丈の伸長が抑制され稲体は健全となり幼穂形成も早まり、出穂期は三日から五日早まった。
- ④ 七月下旬から八月下旬までやや低温・少照の気象で、登熟はやや緩慢であったが粒の肥大は順調に推移した。



⑤ 八月下旬から九月中旬まで高温少雨であったため、中生種の登熟は進み収穫作業も順調に進んだ。また、病害虫の被害は少なく品質も良好であった。

山古志村で行った坪刈調査では、最高収量と最低収量の差が著しく、越路早生で二七四キログラム、トドロキワセで二〇六キログラムと、コシヒカリで二二四キログラムと大きな開きがあります。水田の地力、経営技術、労力など条件の違いがあるとはいえ、この差はあまりにも大きすぎます。

このことは土づくり、育苗、田植、施肥、水管理などの技術の差が現われていると考えられます。来年の稲作りにむけて、今年の稲作の問題が何であったかを整理しておくことが大事です。とりあえず次のことを検討してみてください。

- ① 自分の家で採取した「種もみ」を使っていると収量や米質が低下するので、「採取圃産の種もみ」に切り替えること。
- ② コシヒカリは収量が安定し価格も高いので、作付面積を増やすこと。
- ③ 元肥を控えめにし、穂肥・実肥を積極的に活用すること。
- ④ 高い収量をあげている人の栽培技術を学ぶこと。

(三古農業改良普及所長岡田)

村民ハイキング

十月十日、秋晴れのもと、約四十五人(うち子供三十五人)が参加、虫亀、種芋原のコースに分かれて萱峠へと歩いた。異常とも言える日照り続きで、途中でのきのこはあまりなかったが、きのこ汁を食べた後、ウォークラリーを楽しみ気持ちのいい一日を過ごした。又、今回は長岡市からの参加者もありました。



長岡公共職業安定所雇用保険課 相談窓口 (三二二一八一内線二六)

雇用保険、正しい理解で 明るい受給

雇用保険の不正受給 防止にご協力を

雇用保険は、失業した場合における生活の保障と再就職の促進を援助するためのものです。保険金は、労働者や事業主の方々が納めた保険料と、国民の税金で賄われています。

している方はルールを守って正しく申告されるようお願いいたします。又、事業主の方も従業員を採用した場合は、早期に雇用保険手続をすることによって不正防止につながりますので、一層のご協力をお願いいたします。

「一九九番」は、私たちを守ってくれています。今年から「一九九番の日」は十一月九日になりました。この日は「共に考える、あなたと消防の未来」の日です。

「一九九番の日」

我が国の消防が自治体消防として発足し四十年を経過しました。国、地方公共団体では、住民生活の一層の安全確保を図るため、住民と消防との意思疎通・相互交流の場として「一九九番の日」を設けることになりました。「一九九」とは、消防はもとより予防、救急、救助、防災等国民生活に密着した広範な活動です。「一九九番」は、私たちを守ってくれています。

郵便局から

お年玉つき年賀はがきを十一月五日から発売いたします。お早めにお買い求めください。



ことば

メートル法・尺貫法

私たちの生活の中に深く根付いた言葉や比喩、格言、諺などの中には数字や旧尺貫法とも関係の深いものが少なくない。「一寸先は闇」、「一寸の虫にも五分の魂」、「五里霧中」、「一分の隙もない」、「波瀾万丈」、「千尋の谷」といった具合である。

ところが昭和三十四年にメートル法が施行され、長い間馴れ親しんだ尺貫法が廃止されると、思いがけぬ事態が起こったということ。言うまでもない。当時新聞社では、記事には一切尺貫法の単位を使わず、止むを得ない場合には、メートル法に換算して注記するような、対応をとったそうである。

その幾つかの例を上げてみましょう。○その志を果たすためには三センチ(一寸)刻みに前進することである。○三センチ(一寸)の虫にも一・五センチ(五分)の魂というではないか。○私は一九・六三キロ(五里)霧中でした。○三百七十五グラム(百匁)ロウソクを乗せたしよく台など大名

生活をしのばせる……。などであるが、これでは比喩、諺もあつたものではなく、長い伝統をひく言葉の面白さは、無茶苦茶になってしまふ。

世界共通の計量法として、メートル法の施行されたことは、国際性や実生活の上では確かに合理的進歩的政策の一つだと思われる。併し私達のまわりには、生活に深く根付いた旧尺貫法時代の言葉が、数多く残されている。土地や建物について話すときも、「七十坪ほどの敷地に二十三坪の家」、あるいは「間口何間、奥行何間」と言うのが普通だし、「酒一・八リットル」より「酒一升」の方がピンとくるし、親しみ易くもある。

今日ではメートル法も、一応社会に定着しているとは思われるものの、長い伝統を引く言葉の、その一つ一つを変えてしまうことは、先ず不可能のように思う。

メートル法にいくらはげしく攻めたてられても、「一寸の虫にも五分の魂」が、「三センチの虫にも一・五センチの魂」になったり、「五里霧中」が「一九・六三キロ霧中」に変わったりは、先ずないでしょう。言葉の不思議さ、面白さを、思いかえしてみても、又楽しいことではないでしょうか。

日々雑感

村長酒井省吾

秋日照が長く続いたため地下水が涸れ飲料水に事欠いたり、錦鯉の最盛期をむかえて池揚げ後の管理に大変苦労するなど、今年の天候は波乱含みで終始した。このところ急激な冷え込みで一段と鮮やかさを増した紅葉の、錦の山波のむこうに八海山、中ノ岳、駒ヶ岳の、うっすらと白く初化粧をした姿がのぞまれ、深まる秋が肌に伝わって来るのを覚える。

泳ぐ宝か錦鯉 本場育ちは日本一 ホンニホンニサ 三色 紅白 銀 黄金 鯉は錦の花ざかり いつも口ずさんでいる山古志音頭の一節である。

原産地越後の秋を飾る全国農林水産祭参加、新潟県錦鯉品評会が十月二十四日、二十五日の両日に亘って開催された。これは新潟県と、新潟県錦鯉協議会が主催する第二十七回の輝かしい伝統をもつ大イベントである。今春から錦鯉協議会の副理事長に就任本大会の主催責任の一端を担う立場となり、いささか緊張の二日間であった。千百五十六点もの逸品が揃った会

場はまさに錦の花ざかりそのもので観る人々をうならせた。長い間景気が低迷し錦鯉も苦難の時代が続いたが、景気浮揚策などが反映されてか今年は何となく明るい兆しが見えたようである。ことである。

いまわが国は二十一世紀にむけて「多極分散型の国土づくりを目指し定住と交流を更に発展させたい」としている。また地方では、ふる里産業おこし、都市と農村の交流事業等がさかんである。私たちの山古志村では先人の遺してくれた錦鯉が極めて優れた特産品であり他の産品と異り錦鯉を通じて人と人の温かい交流に役立っている。

現在村民の多くが国の内外、各地の人々と親密な交流をもち、中には親の代から続いている例も多い。ハワイからも錦鯉とやまこしの人々の人情にほれて二十年も続けて訪れる友人もある。まさに一村一品の先駆者であり各々が定住と交流の実践者である。外にはかり目を向けて心を空洞にすることなく、山古志に自信と誇りを見出し常に「心に錦」で明日へ進もう。